

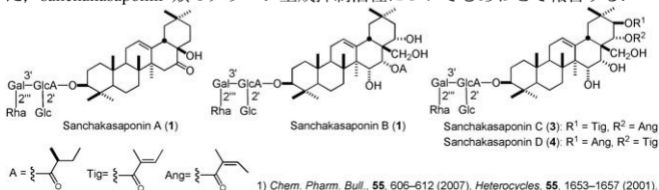
31E13-pm09S

メディシナルフラワー研究：中国産椿花 (*Camellia japonica*) の新規オレアナン型トリテルペン配糖体とメラニン生成抑制作用

中村 誠宏¹, ○藤本 勝好¹, 中嶋 聡一², 松本 崇宏¹, 宇野 薫¹, 三浦 朋子¹, 松田 久司¹, 吉川 雅之¹(¹京都薬大, ²エヌ・ティー・エイチ・研)

【目的】ツバキ科植物ツバキ (*Camellia japonica*) 花部 (中国名: 山茶花) は古来より日本, 中国において, 抗炎症薬, 健胃薬, 吐血および出血時の治療薬, 打撲傷の治療 (外用薬) 等に用いられている. 我々はこれまでに, 日本産ツバキ (*C. japonica*) 花部から新規トリテルペン配糖体 *camellioside A-C* および *D* を単離するとともに, それらの成分が胃保護作用および血小板凝集作用を有することを見出した.¹⁾ 今回, *Camellia* 属植物花部の生体機能性成分の探索研究の一環として, 中国産ツバキ (*C. japonica*) 花部の含有成分の探索を行った.

【結果および考察】中国産ツバキ (*C. japonica*) 花部のメタノール抽出エキスを, 酢酸エチル, 1-ブタノールおよび水にて溶媒分配し, 1-ブタノール移行部を各種クロマトグラフィーにて繰り返し分離精製した. その結果, 既知サポニン成分とともに 4 種の新規トリテルペン配糖体 *sanchakasaponin A-D* (**1-4**) を単離した. 新規成分の化学構造は, 物理化学データの解析および加水分解の結果から決定した. また, *sanchakasaponin* 類のメラニン生成抑制活性についてもあわせて報告する.



1) *Chem. Pharm. Bull.*, **55**, 606-612 (2007), *Heterocycles*, **55**, 1653-1657 (2001).